



証券アナリスト基礎講座 スタディ・ガイド

—証券投資の基礎を学ぶ—

目 次

はじめに	1
I. 基礎講座の特色	2
1. 着実な理解を重視した講座構成	2
2. 効率的でわかりやすい学習を目指したテキスト	3
3. 「Web 演習問題」について	4
4. 「主な質問と回答」について	4
5. テキスト各章の概要	4
II. 修了試験	
1. 試験の形式	8
2. 合否判定基準	8
3. 修了試験受験可能期間	8
4. 受験料	8
5. 合否通知	9
6. 修了証の授与	9
7. その他	9

基礎教育委員会について

「証券アナリスト通信教育講座（CMA プログラム）」へのお誘い

はじめに

「証券アナリスト基礎講座」(以下、基礎講座)は、金融機関のみならず事業会社を含めた金融実務に携わる社会人から、証券投資・分析に関心を持つ大学生や個人投資家まで、職業や年齢を問わず幅広い層を対象に、証券投資・分析の基礎知識や考え方を効率的に学ぶ機会を提供することを目的として、2004年度に開講しました。

基礎講座のテキストは証券や金融に関する専門知識を前提とせず、一般的な経済常識と初歩的な数学の知識があれば十分に理解できるよう、数式は最小限にとどめ、ファイナンス関連の基礎知識に重点を絞り、図表を多用しています。

学習に際しては、各章ごとの **Web** 演習問題を解くことで、その章の理解度をチェックできるほか、受講者から当協会に寄せられた代表的な質問に対する回答をマイページ(受講者の専用ページ)に掲載しており、テキストの理解をより確かなものにできるよう工夫されています。これらの学習を通じ自信をつけて、修了試験に挑戦し、合格を目指してください。

I. 基礎講座の特色

1. 着実な理解を重視した講座構成

「基礎講座」は、①テキストによる学習、②マイページにある Web 演習問題による理解度の確認、③修了試験の受験と合格者への修了証の授与の3つがセットになり、着実に理解できるよう工夫された教育講座です。

また、受講者がよく抱く疑問を解消するため、寄せられた主な質問と回答を、マイページに掲載しています。

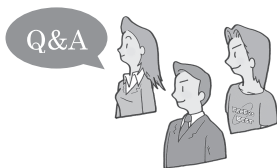


- ・独立した 13 章からなるコンパクトなテキスト (2 分冊構成)。

…各章に設けた【本章のねらい】と【まとめ】で学習内容の要点をつかみ、【コラム】で知識を広げ、【受講者への質問】を考えることで、主要な学習事項を再確認します。



- ・マイページ内に設けられた各章ごとの【Web 演習問題】(四肢択一方式)を解くことで、その章で学んだ内容の理解度をチェックします。



- ・受講者から寄せられた主な質問と回答をまとめた【主な質問と回答】を参照すれば、テキストの理解や疑問点の解消に役立てられます。



- ・コンピュータによる修了試験 (90 分) を、全都道府県 100 か所余りの会場でほぼ毎日受験できます (祝日、年末年始等は除く)。

- ・修了試験の合格者には、「修了証」が授与されます。

2. 効率的でわかりやすい学習を目指したテキスト

(1) テキストの構成

テキストは、独立した全13章から構成され、第1分冊と第2分冊の2冊に分かれています。第1章から順に読み進めていくことが基本ですが、章ごとに完結していますので、関心のある章から読み始めても構いません。

効率的に学習できるように、各章の冒頭に【本章のねらい】、章末に【まとめ】と【受講者への質問】を入れて、章ごとに確実な知識を身につけられるようになっています。

また、煩雑な数式は極力省き、文章をたどることで理解できるように工夫されています。

(2) テキストの内容と読み方

金融機関や資産運用会社等の現場で、商品知識の基礎や金融商品そのものの特徴を知りたい受講者には、第2分冊の第6章（株式投資）、第7章（債券投資）、第8章（外国証券投資）、第9章（デリバティブ）の各章が有用です。

一方、個人の資産運用に関する知識も重要になっていますが、この点については第2分冊の第11章（個人投資家の資産運用）、第12章（確定拠出年金）、第13章（投資信託への投資）の各章をご覧ください。

また、証券分析に利用されるファイナンス理論に不可欠な、リターン（収益）やリスク、統計的な手法などに関する初歩的な考え方については、第1分冊の第3章（証券投資の基礎概念）、第4章（ポートフォリオ理論）、第5章（資本資産評価モデル〈CAPM〉）で学んでください。

3. 「Web 演習問題」について

各章の学習を終えたら、マイページにある「Web 演習問題」を解いて、その章で学んだ内容の理解度を確かめてください。この問題の形式は修了試験と同じ四肢択一式となっています。

Web 演習問題に解答すると、「解答と解説」等が表示されます。正解できなかった問題については、解説やテキスト本文を参照して復習してください。なお、Web 演習問題は何度でも解答できます。繰り返し解くことで、理解を完全なものにしてください。

※ 「Web 演習問題」の解答およびその結果は、修了試験の受験要件等には影響しません。

4. 「主な質問と回答」について

マイページには、基礎講座の開講以来、受講者から寄せられた主な質問をもとに、各章別に整理した「主な質問と回答」を掲載しています。テキストの内容に関する疑問点の解消などに活用してください。

5. テキスト各章の概要

第1分冊

【第1章 経済と金融】

経済のメカニズムや企業の資金調達と証券投資の関係、金融機関の機能などについて概観します。

【第2章 証券市場】

株式、債券、投資信託などについて、基本的な性格と制度的な枠組みや取引の仕組み等を概観するとともに、投資に当たっての留意点、市場動向を示す指数（インデックス）などについて解説します。

【第3章 証券投資の基礎概念】

証券投資を考える際にキーとなる概念を解説します。具体的には、お金の将来価値（現在のお金が将来いくらになるか）、現在価値（将来のお金は今いくらなのか）が金利（利率）により決まること、将来受け取る金額が不確実な場合に算出される期待リターンとリスクなど、証券投資を考えるうえで不可欠な基礎概念を学びます。

【第4章 ポートフォリオ理論】

ポートフォリオとは投資対象となる証券の組合せのことで、どのような組合せが望ましいかは投資家によって異なります。証券投資から得られる効用（満足感）は、投資対象の期待リターンとリスクに依存しますが、投資家に最大の効用を与える最適なポートフォリオの決定に至る考え方を解説します。

【第5章 資本資産評価モデル（CAPM）】

証券投資に伴うリスクには、①複数の証券への分散投資によって減らすことができる「固有リスク」と、②分散投資によっても減らすことができない「市場リスク」の2つがあり、合理的な投資家は分散投資によって固有リスクを取り除き、市場リスクのみを負うことで、リスクに見合った超過リターンが期待できるというのが CAPM の基本的な考え方です。また、市場リスクの大きさを測るベータ（感応度）という概念についても学びます。

第2分冊

【第6章 株式投資】

株価を評価する理論をはじめ、企業利益と配当の関係、株式をめぐるリスク、株価の割高・割安を判断する投資尺度（PER、PBR、配当利回りなど）、ファンドと投資スタイルなどについて解説します。

【第7章 債券投資】

いろいろな債券の特徴や投資尺度としての各種の利回りをはじめ、デュレーション、イールド・カーブといった重要な概念を踏まえつつ、金利と債券価格、投資期間との関係などを解説します。また、社債投資の際に不可欠な信用リスクや格付、株式に転換できる転換社債、デリバティブが組み込まれた仕組債の概要についても学びます。

【第8章 外国証券投資】

外国証券投資を通じた投資機会の拡大と分散投資効果、為替リスクと為替ヘッジ、新興国投資など、外国証券を投資対象に加えるうえで理解しておくべき必須のポイントを解説します。

【第9章 デリバティブ】

デリバティブ（先物、オプション、スワップなど）は金融派生商品ともよばれ、その元となる金融商品の価格変動リスクを回避する手段として誕生しました。元となる資産（原資産）から派生（derive）しているため、原資産の価格変動によりデリバティブの価格も変化します。デリバティブは、リスクやリターンの特性が原資産と異なっており、リスクヘッジや投機的手段として使われていることを学びます。

【第10章 機関投資家による資産運用】

機関投資家による資産運用は、投下する資金の性格に応じて投資目標や投資期間を考慮しながら、自らのリスク許容度に適合した投資政

策に基づいて遂行されます。年金基金をはじめとする機関投資家の概要や、その投資政策の中核をなすプロセスである資産配分（アセット・アロケーション）、資産運用の評価手法などについて学びます。

【第 11 章 個人投資家の資産運用】

個人による資産運用は投資期間が有限となるため、各個人のライフサイクルが投資の意思決定に大きく影響します。個人投資家が資産運用の意思決定を行う際に留意すべきポイントとして、ライフサイクルと投資の関係、資産運用と税金の関係などについて解説します。

【第 12 章 確定拠出年金】

確定拠出年金制度の概要やその資産運用に関わる問題、非課税の効果とともに、確定拠出年金向け運用商品の選択方法や資産運用の実態などについても解説します。

【第 13 章 投資信託への投資】

個人の資産運用で重要な役割を担う投資信託における運用手法の特徴や商品特性を解説します。また、投資信託商品の評価手法について概要を解説するとともに、投資対象の拡大を踏まえ、REIT やヘッジファンド、コモディティといったオルタナティブ投資の現況にも触れます。

II. 修了試験

1. 試験の形式

- (1) 試験時間は 90 分です。試験問題は 40 問（1 問 3 点）で 120 点満点です。形式は Web 演習問題と同形式の四肢択一問題です。
- (2) コンピュータ試験です。全都道府県 100 か所余りの会場ではほぼ毎日（祝日、年末年始等は除く）受験できます。

2. 合否判定基準

120 点満点で一定割合の得点をした方を合格者とします。

3. 修了試験受験可能期間

受講開始後、3 年間受験できます（受験回数の制限はありません）。ご自身の学習ペースに応じて、受験の時期を決めてください。

4. 受験料

- (1) 修了試験の受験料として、受講開始後 6 か月以内に受験する 1 回分が受講料に含まれています。
- (2) 2 回目以降または受講開始 6 か月経過後の受験料は、1 回当たり 5,200 円（消費税込み）です。受講開始後 3 年間は何回でも受験できます。

受験申込手続の詳細は、当協会ウェブサイト (<https://www.saa.or.jp>) をご覧ください。

5. 合否通知

試験の終了後、コンピュータ画面上に合否結果が表示され、24 時間以内に送信される試験結果通知メールの URL から試験結果の確認および印刷ができます。

6. 修了証の授与

合格者には、当協会より受験の翌月に「修了証」が送付されます。

7. その他

- (1) 「基礎講座」の学習内容よりもさらに深く学びたい方は、「証券アナリスト第 1 次レベル講座」の受講をお勧めします。
- (2) 基礎講座は、証券アナリスト第 1 次レベル講座の「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」の基礎となる部分をカバーしています。

上記内容は、2020 年 10 月現在で記述してあります。受講料、受験料を含め、今後予告なく変更することがあります。
--

基礎教育委員会について

「証券アナリスト基礎講座」のカリキュラムの策定、教材の作成、試験問題の作成・選定、試験の合否判定は当協会基礎教育委員会が所管しています。

2020年10月現在

(敬称略・五十音順)

委員長	菅原 周一	文教大学 教授 (CMA)
委員	金崎 芳輔	東北大学 元教授
同	三浦 哲也	クレディ・スイス証券 (CMA)
同	矢野 学	三井住友信託銀行 (CMA)

[基礎講座のお問合せ]

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(教育運営部)

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 2-1

東京証券取引所ビル 5階

<https://www.saa.or.jp>

E-mail:kiso@saa.or.jp

「証券アナリスト通信教育講座（CMA プログラム）」へのお誘い

— 基礎講座を修了した方へ —

基礎講座の学習を終え、修了試験に合格した皆様方には、次のステップとして「証券アナリスト通信教育講座」という日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）資格取得のための教育プログラム（CMA プログラム）が用意されています。

CMA プログラムは、証券分析業務に必要な専門的知識と分析力の習得を目的としてテキストにより体系的な学習を行い、講座終了後に実施される試験を通じて証券アナリストとしての専門水準を認定するものです。

CMA 資格の保有者は、現在 27,400 名強を数え、金融・投資のプロフェッショナルとして、銀行や証券会社、資産運用会社をはじめ、一般企業の財務・IR 部門など幅広い分野で活躍しています。

CMA プログラムの講座および試験は、第 1 次レベルと第 2 次レベルに分れています。

- ①第 1 次レベルの全科目に合格すると第 2 次レベルに進むことができます。
- ②第 2 次レベルは全科目の総合試験となります。
- ③第 2 次レベルの試験に合格され、かつ、証券分析の実務経験を 3 年以上有する方は、日本証券アナリスト協会認定アナリスト (Certified Member Analyst of the Securities Analysts Association of Japan、CMA) の称号を得ることができます。

なお、「基礎講座」と「証券アナリスト第 1 次レベル講座」を並行して受講することも可能です。

※ CMA プログラムの詳細は、当協会ウェブサイト (<https://www.saa.or.jp>) をご覧ください。

